

◎9月22日(日)開催 第3076回例会
単独例会/ふるさと兵庫100山

「丹波の名峰・白髪岳へ」に参加して

布引支部 熊野 健作

写真撮影 福永 誠・吉野 宏

9月22日、9時にJR福知山線・古市駅に集合。川崎委員長が参加者の把握をされ、吉野会長のプレゼンを拝聴している途中から心配された雨がポツリポツリと降り出し、今日の前途を暗示された。



本日の例会は、ヒヨコ単独で「ふるさと兵庫100山/丹波の名峰・白髪岳(721.8M)」へ。台風17号の影響も懸念され、不参加とされた方も多かった模様。予報では兵庫県南部地方の午前中の降水確率が40%から50%~60%と慌ただしく変化。ところが、丹波篠山方面は、20%~30%と低く、判断のしにくい天候であったが、それでも一般参加2名を含め24名の勇敢な(?)メンバーがアタックした。



乗り継ぎ時刻に間に合わず、遅刻した1名が追いつける時間を調整するかのように、里山の風情を楽しみながらのゆっくり歩調。登山口の住山地区に着く頃には雨も上がってくれていた。

小休止の後、追いついたOさんを含め出発。左・白髪岳、右・松尾山(しょうびさん)の分岐から左方向へ進む。そこで待っていたのは丹波栗の生産林。特徴的な大きなイガは、中身がタププリ詰まっていそう。



美味しそうな栗を後にして、本格的な登山道へ。まだまだ暑さも残っており、水分補給とやぶ蚊対策を気にしつつ杉林を通り抜ける。標高が高くなってくると木々の様子も変わって行き、里山の雑木林から最後は松林へ。



「松茸は無いよな?」とみんな同じような感想を持ちながら、白髪岳の一番の特徴の岩場へ。ロープや鎖のある迂回ルートにみんなが順番に登っている間に、別ルート大好きな女クライマー・MKちゃんが正面から岩場を登る。お城の石垣の見える岩を登るとみんなと同じ場所へ出た。岩の上は360度の大パノラマ!丹波・播磨の山々が、今日の天気、白い雲や霧を纏い、まるで墨絵のよう。天気の優れない時の景色もなかなかのものである。



岩場を過ぎると山頂はすぐ。天気を気にしたのか他の登山客は全くおらず、ゆっくりと昼食をとることが出来た。



全員で記念写真を撮った後、下山開始。山頂から北側に降り始めたが、これがすごい急坂！足元が濡れて不安定な中、時間をかけてゆっくりと下りる。登り返す手前から山腹を巻いて30分程緩やかな木立の尾根筋を歩くと、松尾

山（しょうびざん）から下って来た分岐に出会った。そこから下って行くと肩越えの辻という場所に出、左へると文保寺からの登山道であった。文保寺は大化元年（645年）に法道仙人によって開かれた歴史ある寺。かつては21坊もの堂舎があったということで、広大な境内は文化遺産の雰囲気を感じ、疲れを癒すには十分な場所であった。



ホッとした後、帰路につく。ここからは平地の舗装路だが、JR篠山口駅まで40分からの徒歩。後から雨が追いかけてきたが、電車に乗る直前であったので何とか濡れずに済んだ。

車中では雨が窓を流れ落ちる様子を眺めながらお疲れ様の乾杯！祝杯！参加者の日頃の行いが良かったのでしょうか！予定通りの行程を完了致しました。

天候 曇り

担当 例会・自然保護委員会

参加者 24名（内当会員22名）